

## 海外研究発表会報告

報告者：館岡洋子・池田玲子

1.	日程	2014年 4月 28日
2.	地域（概要含む）	中国 北京外国語大学北京日本学研究センター
3.	担当者（人数・役割）	館岡洋子（早稲田大学）・池田玲子（鳥取大学）
4.	形態	北京日本学研究センター公開セミナー（グループ・ディスカッションを含む）
5.	主催	北京外国語大学北京日本学研究センター
6.	テーマ（タイトル）	グローバル時代における日本語教育の協働学習の実践と理論
7.	内容の概要	テーマ1 館岡 「きょうどう—共同？協同？協働？」 テーマ2 池田 「グローバル社会と協働学習」
8.	参加者 （人数・背景・声など）	約 25名 日本語教育関係者 10名 院生 15名
9.	担当者の内省	<p>前半の理論解釈が実践へと結びつくことを意図して構成した。テーマ1では、「協働学習」といっても実践者によって目指すところや重視する活動は異なっていることを示した。このことを意識しないまま、すでに存在している「ひとつの協働学習」があるという前提で議論をしてはかみ合わないことを述べた。会場からは、結論として提示した「二項対立を越えて」については会場からの質問があり、さらに深い議論へと展開した。</p> <p>テーマ2では、グローバル化という社会状況の中での協働の必要性を強調し、実践での学習課題の設定について具体的に例をあげて問題提起した。会場からは、創造的な課題を授業で設定することが可能なかどうかについて質問があった。また、中国の教育制度の中で協働学習をどう実現できるか問題提起があった。</p> <p>協働学習の可能性はよく理解できるが、中国の現場で実践することは不可能あるいは困難を伴うという反応は今回にかぎったことではない。このことについては、講演者たちも考え続けるとともに、それぞれのフィールドに立つ教師が横のつながりを強めながらフィールド独自の解決方法を模索していくべきではないかと考える。今後、講演などで協働学習の</p>

		理念を発信するのみでなく、現場の教師たちがつながりあえる場づくりの重要性を実感した。
10.	次回への課題	平日の開催だったので、参加人数は少なかったが、質問を受ける時間が十分に設定できたことは幸이었다。講演者にとっても中国の教育現場について貴重な情報提供が得られた。今後の中国での協働実践研究については、北京からの発信が重要となってくることを確信した。

--	--	--
